

地理学会ニュース

2024年度 第1号

法政大学地理学会

2024年7月1日発行

2024年度第1回例会（日帰り巡検）の報告

今年度の第1回例会（日帰り巡検）は2024年6月2日（日）に、日本大学地理学会との共催で「近代日本の発展とその素地を東京首部の巡検から読み解く」とのテーマで実施されました。案内者は山形大学名誉教授で、本学の兼任講師でもある八木浩司氏に務めていただきました。参加者は24名（うち法政大学地理学会からの参加者は17名）で、その後の意見交換会には15名の参加がありました。

12時50分に東京駅丸の内北口改札前に集まり、その部分の天井ドームを見上げるところから巡検がスタートしました。東京駅の駅舎は辰野金吾の設計によって1914年に創建された日本を代表する近代建築であり、2012年に保存・復原工事が施されました。復原工事によって創建当時の意匠が再現され、干支の彫刻などさまざまなレリーフを発見することができ、100年前の姿を確認することができました。

同駅の丸の内中央部に移動し、その正面玄関から皇居に向かって伸びる行幸通りと合わせて、かつての日本の玄関口の整備について説明を受け



写真1 「日本の玄関口」である東京駅

ました（写真1）。その行幸通りを挟む形で丸の内ビルディング（丸ビル）と新丸の内ビルディングが立地しており、周辺のビルと併せて、近代期の丸の内周辺の開発とその後の丸の内再開発の様相を確認しました。丸ビルの1階には創建時に使用された基礎の杭が保存されており、当時の工事の状況を窺い知れます（写真2）。

次に、和田倉濠の脇を抜け、大手門から皇居東御苑（旧江戸城内）に入りました。旧江戸城内では台所前三重櫓跡の展望台から周辺の位置関係ならびに江戸城周辺の地形等についての説明を受け、さらに移動して本丸跡や大奥跡、天守台に移動しました（写真3）。もちろん、現在ではそれらの部分の建物は残っていませんが、その近くに江戸城天守復元模型が展示されているので、当時の状況を確認することができます。

北詰橋門から皇居東御苑を出て、北の丸公園の外れにある旧近衛師団司令部庁舎に向かいました。1910年に竣工した二階建て赤レンガ造りであ



写真2 丸ビルの基礎杭の展示



写真3 天守台から大奥跡・本丸跡に向かったの集合写真



写真4 雨中の日本水準原点

る同庁舎は1960年代後半に取り壊しの計画が立てられましたが、重要な近代建築とのことで保存運動が展開され、その後に国指定重要文化財に指定されたことで、現存しています。東京国立近代美術館工芸館として活用されていましたが、同館が2020年に金沢市に移転したため閉館となり、残念ながら、内部に入ることはできませんでした。

千鳥ヶ淵の南側を通り、次には英国大使館に向かいました。同館が皇居のすぐ傍に位置している意味について皆で考えた後、半蔵濠、桜田濠の横を歩いて、次の目的地に向かいます。国立劇場や最高裁判所、国立国会図書館、国会議事堂の傍らを通ることで、この場所が日本の司法や行政、文化の中心であることが再認識しつつ、国会議事堂の前にある日本水準原点に到着しました(写真4)。巡検開始時には小雨が降る程度でしたが、この頃になると、雨が強くなり、参加者は皆足元がずぶ濡れの状態でした。そして、最後に国会議事堂や首相官邸を横目に見ながら、また、細かな地形の

起伏を体感しながら移動し、地下鉄溜池山王駅のところ解散しました。

今回の巡検では本学にもほど近い東京の中心部を歩き、改めて東京の地形や歴史、都市開発の様相を確認できたかと思います。また、日本大学地理学会との合同の巡検とのことで、双方の交流も図ることができ、参加者の多くは満足していたかと思います。ただし、途中の大雨には閉口しましたが。

今回の巡検をご案内いただいた八木先生と合同の巡検を企画していただいた日本大学地理学会の佐藤浩先生にはあらためて御礼申し上げます。

(集会委員会)

2024年度第2回例会(シンポジウム)の案内

今年度の第2回例会については、「地理学と食」とのテーマで、2024年10月か11月に法政大学市ヶ谷キャンパスにて対面形式で実施する予定です。ただし、現時点では詳細は未定です。詳細については地理学会ニュース第2号(2024年9月発行予定)や学会のウェブサイト、Facebookにてお知らせします。

(集会委員会)

法政大学地理学会定期総会

法政大学地理学会定期総会は、2024年5月11日(土)11時より、法政大学市ヶ谷キャンパスBT1300教室にて開催された。佐々木達庶務委員長による開会の辞のあと、議長に安森直輝会員、書記に隅拓渡会員、議事録署名人に吉原圭佑会員を選出して以下の議題に入った。議題1~8については、いずれも常任委員会より提出された原案が承認された。

(出席者19名 委任状38名 計57名により総会成立)

議事

1. 2023年度事業報告

加藤美雄常任委員長より以下の事業報告について報告があり、承認された。

1) 2023 年度定期総会の開催、および 2024 年度定期総会の開催準備

法政大学地理学会 2023 年度定期総会は、2023 年 5 月 13 日（土）に開催し、常任委員会より提出された原案が承認された。（出席者 21 名、委任 35 名）

定期総会では法政大学社会学部の澤柿教伸教授による講演『第 63 次南極地域観測隊の越冬活動』、及び 3 題の一般研究発表が行なわれた。

2) 機関誌「法政地理」第 56 号（2024 年 3 月 24 日発行）と法政大学地理学会ニュースの発行（年 4 回発行）

・「法政地理」第 56 号は紙碑、シンポジウム特集、研究、研究ノート 2 編、フォーラム 1 編、文献紹介 4 編などを内容とし、総頁 108 頁であった。

・法政大学地理学会ニュースを以下の通り発行した。

第 1 号 2022 年 6 月 15 日発行

第 2 号 2022 年 8 月 28 日発行

第 3 号 2022 年 1 月 20 日発行

第 4 号 2023 年 3 月 23 日発行

3) 例会について

・2023 年度第 1 回例会（日帰り巡検）の開催

第 1 回例会（日帰り巡検）は 2023 年 9 月 23 日（土）に、「土石流災害からの復興および中心市街地活性化の現状をみる」とのテーマで開催し、11 名が参加。内容は、2021 年 7 月に熱海市伊豆山地区で発生した土石流災害からの復興状況の把握や、観光客が激減した熱海における中心市街地の再生を確認した。また、1919 年に建築され、根津嘉一郎などの実業家や政治家によって所有された別荘の起雲閣を訪れ、最後に網代における石の採掘場や積み出した石丁場と呼ばれる遺跡などを見学した。

・2023 年度第 2 回例会（シンポジウム）の開催
第 2 回例会（シンポジウム）は 2023 年 10 月 21 日（土）に、「関東大震災 100 年 大地震と都市空間—過去に学び、近未来を描く—」のテーマで法政大学江戸東京研究センターとの共催で対面形式にて開催した（会場は市ヶ谷キャンパス富士見ゲート 4 階 G402 教室）。会場には会員だけでなく、非会員の方の来場もあり、合計 71 名が参加

した。初めに陣内秀信氏（江戸東京研究センター特任教授）の基調講演があり、続いて地震学の宍倉正展氏（産業技術総合研究所地質調査総合センター）、経済地理学の鷺崎俊太郎氏（九州大学経済研究院准教授）、表象文化論の岡村民夫氏（法政大学国際文化学部教授）の報告があった。この報告を受けて前杵英明教授、米家志乃布教授からのコメントがあり、全体討論を行なった。

4) ホームページの管理・運営

・学会開催のイベントごとにホームページにて情報を発信している。

・ホームページの年度毎の内容更新をしている。

・ニュースレターの内容、「法政地理」第 52 号までの内容を PDF にて掲載。HP 問い合わせページの管理や Facebook との連携をしている。

・学会 HP のリニューアルと紹介がなされた。
(<https://hoseichiri.ws.hosei.ac.jp/>)

5) 会員名簿の管理

2024 年 4 月 1 日現在 会員総数 769 名

名誉会員：6 名

一般会員：251 名（学内院生 21 名を含む）

学生会員：512 名（学部学生 438 名、通教学生など 74 名）

2023 年度入会者 125 名

（一般 7 名（院生 2 名含む）、学生 118 名（学部学生 105 名を含む））

2023 年度退会者 108 名

（一般 12 名（院生 5 名含む）、学生 96 名（学部学生 94 名を含む））

2023 年度末除籍者 14 名

（一般 10 名（院生 0 名）、学生 4 名）

6) 機関誌「法政地理」の PDF 化完成

2023 年度の総会でお知らせしたように、会員の利便性向上に資するために行なっていた法政地理の PDF 化が完了し、法政大学図書館ウェブサイトの学術機関リポジトリで 1 号からすべて閲覧できるようになった。法政大学図書館のサイトからも閲覧できるし、学会ウェブサイトにリンクが張ってあるので、「トップページ」→「研究論文・出版物」→「機関誌」とクリックすれば閲覧できる。また、学会ウェブサイトには、図書館のサイトより簡単な検索機能があり、キーワードを入力

すれば、関係する論文、研究ノート、文献紹介、フォーラムなどに容易にたどり着くことができる。論文やレポート作成、文献収集などに是非ご利用下さい。最新号については登録に時間がかかるので送付したものを参照してください。

支部活動援助費	10,000	0
情報化関連費	4,000	38,494
雑支出（予備費）	3,0000	22,892
<u>次年度繰越金</u>	<u>1,356,391</u>	<u>1,811,076</u>
支出合計	2,760,391	2,872,402

7) 「地理学研究奨励金」の授与に関わる事業

2023年10月9日に桜美林大学に於いて、法政大学地理学会地理学奨励金授与審査委員会を開催し、下記の者に授与することに決定した。

・吉原圭佑(法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻博士課程)

授与対象論文：グローバルアライアンスと国際航空路線網の変遷（法政地理第55号掲載）

・石川恵架(法政大学文学部地理学科2021年度卒業)

授与対象論文：1980年代を知る人々からみた神田学生街の変容(法政地理第55号掲載)

(2) 特別会計（積立金）

【収入】	〈予算〉	〈決算〉
雑収入	0	36
<u>前年度繰越金</u>	<u>4,371,438</u>	<u>4,371,438</u>
収入合計	4,371,438	4,371,474

【支出】	〈予算〉	〈決算〉
雑支出	10,000	590
委員会運営費	30,000	9,845
研究奨励給付金	70,000	70,019
<u>次年度繰越金</u>	<u>4,261,438</u>	<u>4,291,011</u>
支出合計	4,371,438	4,371,474

8) その他 通常払込料金加入者負担への変更

「法政地理」第55号から綴込の払込取扱票を赤色の通常払込料金加入者負担用のものに変更した。この払込取扱票を利用して、ゆうちょ銀行の通帳もしくはキャッシュカードで払込の手続きをすれば、通常払込料金が無料となる（ただし、ATM や窓口において現金で払込手続きをすれば手数料110円がかかる）。

2. 2023年度決算報告

前本英明会計委員長より以下の決算報告がなされた。

(1) 一般会計

【収入】	〈予算〉	〈決算〉
会費等	1,200,000	1,282,000
出版補助金	150,000	150,000
雑収入	20,000	50,011
<u>前年度繰越金</u>	<u>1,390,391</u>	<u>1,390,391</u>
収入合計	2,760,391	2,872,402

【支出】	〈予算〉	〈決算〉
消耗品費	20,000	0
印刷費	1,200,000	843,829
郵送費	20,000	5,451
委員会運営費	100,000	150,660
特別活動援助費	20,000	0

3. 2023年度監査報告

木村成彦監査・小山伸樹監査より「会計は適正に処理されている」とする監査報告があり、上記2の決算報告とともに承認された。

4. 2024年度事業計画案

加藤美雄常任委員長より以下の事業計画案が提起され、承認された。

- 1) 2024年度定期総会の開催、および2025年度定期総会の開催準備
- 2) 機関誌『法政地理』57号（2025年3月発行）法政地理学会ニュース（4回発行予定）の刊行
- 3) 例会、巡検、シンポジウムの開催
- 4) 学会ウェブサイトおよびfacebookの管理・運営など
- 5) 会員名簿の管理
- 6) 支部活動の援助等
- 7) 「地理学研究奨励金」の授与に関わる事業
- 8) 法政大学地理学会 論文賞の選考と授与
- 9) 選挙管理委員会の設置と評議員選挙
- 10) 学生会員の親睦活動の補助（会員の継続などを依頼）
- 11) その他

5. 2024年度予算案

前々英明会計委員長より以下の予算案が提起され、承認された。

(1) 一般会計

【収入】	〈予算〉
会費等	1,200,000
出版補助金	150,000
雑収入	20,000
前年度繰越金	<u>1,811,076</u>
収入合計	3,181,076

【支出】	〈予算〉
消耗品費	20,000
印刷費	1,300,000
郵送費	20,000
委員会運営費	150,000
特別活動援助費	120,000
支部活動援助費	10,000
情報化関連費	6,000
雑支出(予備費)	30,000
次年度繰越金	<u>1,525,076</u>
支出合計	3,181,076

(2) 特別会計(積立金)

【収入】	〈予算〉
雑収入	0
前年度繰越金	<u>4,291,011</u>
収入合計	4,291,011

【支出】	〈予算〉
雑支出	10,000
委員会運営費	30,000
研究奨励金給付費	100,000
次年度繰越金	<u>4,151,011</u>
支出合計	4,291,011

2024年度評議員会の記録

2024年度定期総会に先立ち、2024年5月11日(土)10時より評議員会がBT1300にて開催され、佐々木達庶務委員長の進行で2024年度評議員会議事の説明を行った。出席者は事前委任状

提出者が6名、当日の出席者は10名であった。

2024年度定期総会時における 特別講演・一般研究発表

2024年5月11日(土)の2024年度定期総会の開催に合わせて、法政大学市ヶ谷キャンパスのボアソナードタワー13階1300教室(BT1300)にて、同日の13:30~15:00の時間帯に特別講演が、また、15:10~16:40の時間帯に一般研究発表が開催されました。昨年度と同様に今年度の特別講演・一般研究発表も対面形式で行われ、32名の参加者がありました。

特別講演と一般研究発表の演者ならびに演題は以下のとおりです。

<特別講演>

大塚一雄：高等学校における地理教育の変遷と授業実践

<一般研究発表>(発表順)

中澤慎太郎・笹本康平・横山大河：調整池の管理と運用実態について—行政による管理を中心に—。(座長：佐々木 達)

松尾 宏：利根川歴史的洪水と防御のメカニズム—明治43年洪水災害と中条堤の考察—。

(座長：宇津川喬子)

加藤美雄・山口隆子：大学生における地球温暖化に関する意識調査。(座長：宇津川喬子)

特別講演の演者である大塚氏は本会の副会長であり、長年、東京都の公立の高等学校にて地理の教鞭をとられ、また、統括校長として地理教育に携わってこられました。今回の講演ではそのご経験が活かされた内容でした(写真1)。まず、前半では戦後の日本における地理教育の変遷を、ご自身の教授歴と絡めて解説されました。後半ではある地域を描写した架空の文章を読んで、その地域の認知地図を描くといった実践課題を基にして、高校生による地理的事象の空間認知についての分析がなされました。時代による教育指導要綱の変化がありつつも、演者が如何にして授業を通じて地理の魅力を伝えよ



写真1 大塚氏による特別講演の様子



写真3 松尾氏による研究発表



写真2 中澤氏による研究発表



写真4 加藤氏による研究発表

うとしてきたのかが理解できる講演でした。なお、大塚氏の特別講演の内容は『法政地理』第57号(2025年3月発行)にて掲載されますので、詳細はそちらをご覧ください。

一般研究発表では、最初に中澤・笹本・横山各氏による連名の発表がなされました(代表発表者は中澤氏)。南関東の調整池の管理や運用に関し、行政の管轄・対応について分類する形で分析がなされた内容でした(写真2)。ゼミ活動の一環での研究とのことで、今後も本研究発表のように、学生会員による研究発表が活発に行われることが期待されます。

次に松尾氏による発表では、明治43年に発生した利根川洪水を事例として、同川の治水計画や防御システムについて、とりわけ中条堤の整備状況や機能について報告がなされました(写真3)。多くの絵図などの史料分析、住民への聞き取り調査や実態調査などの現地でのフィールドワークが精力的に行われた研究であり、これ

まで認識されてきた中条堤に対する評価とは異なる新しい側面が提示されました。

最後に加藤・山口両氏による連名の発表では(代表発表者は加藤氏)、加藤氏が授業を担当する本学ならびに日本大学の大学生を対象に、地球温暖化に関わる意識について行われたアンケート調査結果の分析・考察が発表されました。非常に多くの設問の回答に対して広く分析されており、さまざまな示唆が得られる内容でした。

今回の一般研究発表では通学課程の学生会員からの発表が得られました。本会の一般研究発表は比較的に敷居が低く、研究の途段階での発表や巡検の記録、地理教育に関する発表も可能です。学生会員の皆さんにとっては発表しやすい場であるかと思っておりますので、これからも積極的にエントリーしてくれることを願っています。

(集会委員会)

地理学教室だより

2024年度の法政大学文学部地理学科には新たに106名の新入生が入学しました。昨年度は、スタッフが休職にならざるを得ない事態が発生するなど教室運営が困難となる局面もありましたが、学生、事務スタッフ、OB・OGの皆様のご理解とご協力によって何とか乗り越えることができました。

本年度は着任3年目の佐々木が学科主任を任せられ、私自身の非力ゆえに皆様にご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、微力ながら教室運営に全力で臨みたいと思います。

機関誌である『法政地理』は開かれた学術雑誌です。ぜひ卒業生の卒業論文、大学院生の業績づくり、そして会員諸氏の活発な投稿を期待しております。私も自分のゼミ生の卒業論文を投稿させたいと考えております。

大学は学問が中心となってこそ充実した実りあるキャンパスライフとなるものです。学問の楽しさを共感できる学生たちを増やしたいものです。

(地理学科主任 佐々木達)

地理学教室（通信教育部）だより

2023年度の学会ニュース1号のこの記事において、昨年度の通信教育課程主任より、近年、通信教育部の地理学科の学生数が増加傾向にあるとの報告がありました。その傾向は今年度も続いており、2024年度前期における通教の地理学科の入学者数は昨年度よりも多くなっています。

上記の動向に併せる形で、通教の多くの地理学科の学生が、学生会員として本会に入会してくれています。そして、通教の学生会員の特徴は例会に積極的に参加してくれている点にあり、本会の活発な活動に寄与いただいています。しかし、願わくは、一般研究発表にも積極的にエントリーしてもらいたいです（これは通教の学生会員だけでなく、すべての会員に該当することですが）。本

会は学術団体であるので、やはり会員による研究活動が会の運営の基盤となります。

2023年度の一般研究発表では、通教OB・OGの一般会員と通教の学生会員の連名による発表がなされました。研究発表は決してハードルの高いものではありませんので、積極的に活動していただきたいと思います。発表したい気持ちはあるけれど、不安な方は本会の集会委員にご相談ください。会員皆さんの積極的な研究活動ならびにその発信を期待しています。

(通信教育課程主任 小原文明)

院・地理学専攻だより

2024年度、法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻には修士課程5名、博士後期課程1名、国際日本学インスティテュート地理学専攻修士課程1名が新たに加わりました。総在籍者数は、地理学専攻修士課程10名、博士後期課程6名、国際日本学インスティテュート地理学専攻修士課程4名となります。

2020年のコロナ禍以来、全学的にはオンラインでの授業がメインで行われておりましたが、今年度からは対面授業が本格的に再開されました。大学院の場合、学部とは異なり、個々の事情に合わせて、これまでもオンラインや対面での授業がフレキシブルに行われていたため、それほど大きな変化はないかと思います。とはいえ、地理学専攻のみなさんにとっては、現地調査や巡検などが今までよりも自由に行えるようになったことは、喜ばしいことかと思えます。

法政大学地理学会でも、例会の巡検やシンポジウムなどは、これまでのようなオンラインではなく、原則として対面開催となります。大学院生のみなさんには、ぜひ、積極的にご参加いただき、OBOGや通教生・学部生の方々との交流を深めていただければ幸いです。

(地理学専攻主任 吉田智)

機関誌「法政地理」第56号(2025年3月発行予定)の原稿募集 編集委員会

2025年3月発行予定の機関誌「法政地理」(第57号)の原稿を募集します。学会員ならば誰でも投稿できます。皆さんからの多くの投稿をお待ちしております。投稿希望者は下記の要領で編集委員会までご連絡ください。原稿の種類は論説,研究ノート,フォーラム,資料解説,文献紹介です。

1. 投稿希望者は2024年9月2日(月)までに、原稿の種類と予定原稿枚数(400字詰原稿用紙に換算)をメールにて編集委員会までお知らせください。

2. 投稿希望者は2024年10月1日(火)必着で、当学会の投稿規程に則り、原稿を送付してください。法政大学地理学会ウェブサイトにある投稿フォームに必要事項を記入し、ファイル一式を添付して提出してください。その際、ウェブサイトから投稿したことを編集委員会のアドレスに必ずご一報ください。また、紙媒体(手書きによる原稿を含む)での提出を希望する場合は、事前に編集委員会までメールでご相談ください。

編集委員会メールアドレス henshu@chiri.info

会計委員会より

会費を滞納されている方にお知らせ致します。本会は2年以上滞納されたら納付の督促を行い、3年以上滞納されたら会誌等の発送を停止しております。また滞納期間が5年に達しますと、自動的に除籍する対応を取っております。会員各位におかれましては、住所変更等で学会からの連絡が届かず、結果として会費滞納状態になっている方もいらっしゃると思います。住所変更等がありましたら、かならず学会にお知らせいただきますようお願い致します。また、卒業後、学生会員は一般会員となります。卒業された学生会員はメール等でお知らせ下さい。メールアドレスの登録を推進しております。学会ホームページより学会メールを利用してお知らせください。

<<会員動向>>

(2024.4.1~2024.6.4まで. 敬称略, 申し込み順)

【入会】⑨名

[一般] 9名(藤井貴子(神奈川県), 丸本美紀(千葉県), 吉本友二(千葉県), 大久保香穂(東京都), 石倉丈士(千葉県))

[一般(院生)] 山中緑(千葉県・院生), 布田龍太郎(東京都・院生), 松本貴子(埼玉県・院生), 石井克彦(神奈川県)

・[学生] 学生1名(秋山翹一(埼玉県・通教学生))

【除籍】14名

・2023年度末(2024/3/31付)除籍(5年滞納)

通常払込料金加入者負担への変更について

「法政地理」第55号から綴込の払込取扱票が赤色の通常払込料金加入者負担用のものに変更いたしました。この払込取扱票を利用して、ゆうちょ銀行の通帳もしくはキャッシュカードで払込の手続きをすれば、通常払込料金が無料となります。ただし、ATMでも窓口でも現金で払込手続きをすれば手数料が110円かかりますのでご注意ください。

法政大学地理学会「地理学研究奨励金」の授与について

地理学研究奨励金授与審査委員会の大塚一雄委員長より、2023年10月9日に法政大学地理学会地理学研究奨励金授与審査委員会を開催し、吉原圭佑会員、石川恵架会員に授与することに決定したので、会長より賞状と奨励金が授与された。

・吉原圭佑(法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻博士課程)

授与対象論文: グローバルアライアンスと国際航空路線網の変遷(法政地理第55号掲載)

・石川恵架(法政大学文学部地理学科2021年度卒業)

授与対象論文: 1980年代を知る人々からみた神田学生街の変容(法政地理第55号掲載)

学会では、「法政地理」最新号に掲載されている論文(論説・研究ノート)の執筆者に、審査

により「地理学研究奨励金」を授与しています。執筆者全員に応募を呼びかけます。ぜひ、下記あてに応募されるようお待ちします。

毎年 6 月末までが申し込みの締め切りです。その後「地理学奨励金審査委員会」で審査し 9 月末までに授与者を決定して、常任委員会へ報告し、法政地理学会ニュース 3 号に発表の上、次年度総会で授与する予定です。授与者には、研究奨励金及び賞状を授与します。

執筆者が氏名、連絡先、卒業・修了年度などを明記し、応募論文を PDF 化し添付の上、下記担当に 6 月末日までに応募してください。ただし教員との共著論文は応募の対象になりません。(6 月末に間に合わない場合は、応募の意思をご連絡ください)

担当：法政大学地理学会副会長 大塚一雄
問合せ先：kotsuka415@gmail.com

2024 年 6 月 20 日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <https://hoseichiri.ws.hosei.ac.jp/>

郵便振替 00170-9-167442